

モモ病害虫の発生状況（7月） 調査地点：福島地域9園地、伊達地域9園地

(1) 灰星病

果実での発生は確認されませんでした。
 収穫期の20日前頃から果実への感染がしやすい状態になるため、散布間隔をあげずに薬剤散布を実施しましょう。

(2) せん孔細菌病

新梢葉、果実での発生ほ場割合は、平年並でした（図1、2）。
 発病部位は見つけしだい除去し、園外に持ち出すなど適切に処分しましょう。

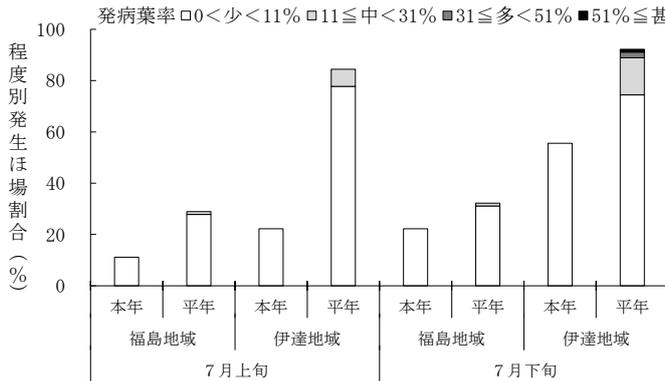


図1 モモせん孔細菌病の発生状況（新梢葉）

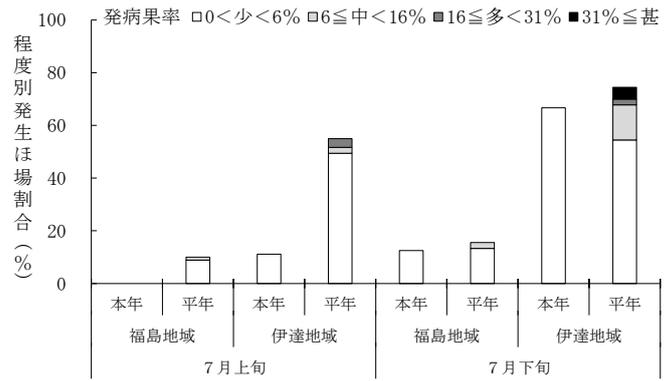


図2 モモせん孔細菌病の発生状況（果実）

(3) モモハモグリガ

新梢葉での被害は、平年並の状況でした。
 園地を見回り、発生が多いほ場では収穫後であっても薬剤散布を実施しましょう。

(4) ハダニ類

新梢葉での寄生ほ場割合は、平年よりやや高い状況でした（図3）。
 園地での発生状況をよく観察し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達した場合は、薬剤散布を実施しましょう。

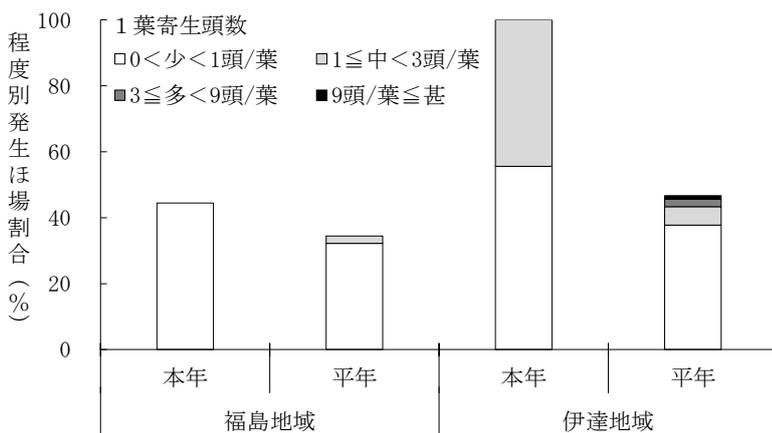


図3 ハダニ類による新梢葉への寄生状況